



[果樹部門]

[農業研究所ホームページへ](#)

5. 岡山県におけるモモせん孔細菌病菌の薬剤感受性の実態

[要約]

岡山県内のモモ産地の一部で、モモせん孔細菌病菌のストレプトマイシン剤に対する耐性菌が発生している。一方、オキシリニック酸剤、オキシテトラサイクリン剤及び硫酸銅剤に対する感受性低下は認められない。

[担当] 岡山県農林水産総合センター農業研究所 病虫研究室

[連絡先] 電話 086-955-0543

[分類] 情報

[背景・ねらい]

近年、県内のモモ産地において、せん孔細菌病が多発している。本病に対する防除薬剤のうち、ストレプトマイシン剤（商品名：ストマイ液剤 20、アグレプト水和剤等）に対する耐性菌の発生が国内で確認されており、本県においても耐性菌の発生による防除効果の低下が懸念される。そこで、県内のモモせん孔細菌病菌について、主要な防除薬剤に対する耐性菌の発生実態を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. ストレプトマイシン剤耐性菌が、12.1%の圃場（13市町33圃場の内4圃場）で確認された（表1）。
2. ストレプトマイシン剤耐性菌に対し、ストレプトマイシン剤の防除効果は低かった（図1）。
3. オキシリニック酸剤（商品名：スターナ水和剤）、オキシテトラサイクリン剤（商品名：マイコシールド等）及び硫酸銅剤（商品名：ICボルドー412、ムッシュボルドーDF等）に対する感受性の低下は認められなかった（表1）。

[成果の活用面・留意点]

1. ストレプトマイシン剤について、薬剤耐性の発達を防止するため、防除効果の低下が確認されない場合でも、可能なかぎり年1回までの使用とする。
2. オキシリニック酸剤、オキシテトラサイクリン剤及び硫酸銅剤については、他作物の細菌病において、耐性菌の発生が報告されている。薬剤耐性の発達を防止するため、同一薬剤の連用は避け、ローテーション散布を心掛ける。
3. 本病は薬剤散布のみで発病を抑えることは難しい。防風対策や発病部位の切除等の耕種的防除と生育期間を通じた薬剤散布を組み合わせた総合防除が重要である。
4. 薬液はむらなく付着するよう、十分量を丁寧に散布する。



[具体的データ]

表1 岡山県内で採取したモモせん孔細菌病菌の薬剤感受性^z

供試薬剤	耐性菌 検出割合 (%)	耐性菌が 確認された 圃場割合 (%)
ストレプトマイシン剤	9.4	12.1
オキシリニック酸剤	0	0
オキシテトラサイクリン剤	0	0
硫酸銅剤	0	0

^z令和元年度に、県内13市町の33圃場から採取した191～192菌株を用いた、寒天希釈平板法による検定結果から判定した

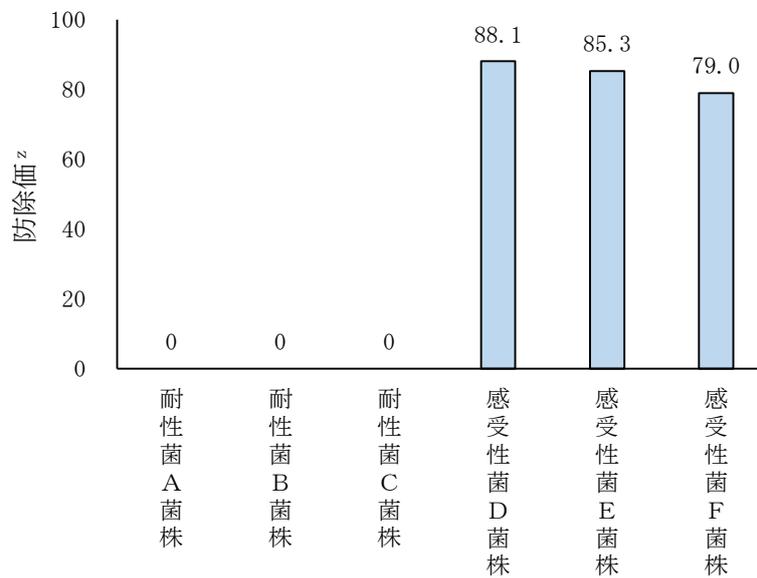


図1 ストレプトマイシン耐性菌に対するストレプトマイシン剤の防除効果^y

^z防除値 = (1 - ストレプトマイシン剤散布区の累計発病葉率 / 無処理区の累計発病葉率) × 100

^y令和2年5月、鉢植えの「清水白桃」にアグレプト水和剤（1,000倍）を散布後に各菌株を接種して試験を実施

[その他]

研究課題名：主要病害虫の薬剤感受性の発生実態の解明と有効薬剤の選抜

予算区分・研究期間：交付金・令和元～2年度

研究担当者：高田真里、尾島正啓